

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年7月7日(2016.7.7)

【公開番号】特開2015-10042(P2015-10042A)

【公開日】平成27年1月19日(2015.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2015-004

【出願番号】特願2013-134740(P2013-134740)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/33 (2006.01)

A 6 1 K 8/97 (2006.01)

A 6 1 Q 13/00 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/33

A 6 1 K 8/97

A 6 1 Q 13/00 1 0 1

A 6 1 Q 19/00

【手続補正書】

【提出日】平成28年5月20日(2016.5.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

< 本発明のバニリルアルキルエーテル >

本発明の化粧料は、必須成分としてバニリルアルキルエーテルを含有することを特徴とする。バニリルアルキルエーテルを構成するアルキル基としては、炭素数 1 ~ 4 のものが好ましく、例えば、バニリルメチルエーテル、バニリルエチルエーテル、バニリルプロピルエーテル、バニリルイソプロピルエーテル、バニリルブチルエーテル、バニリルセカンダリーブチルエーテル、バニリルイソブチルエーテル、バニリルターシャリーブチルエーテル、バニリルシクロプロピルメチルエーテル、バニリルシクロブチルエーテル等が具体的に好ましく例示できる。この内、バニリルブチルエーテルは、既に市販されておりそれを用いることもできるし、バニリルアルコールを塩化チオニルなどのハロゲン化剤でハロゲン化した後、水素化ナトリウムなどのアルカリ存在下対応するアルコールと縮合させて製造し、使用することもできる。バニリルアルキルエーテルの含有量は、化粧料全量に対して、0 . 1 質量% 以上であり、上限に特に規定はないが、多すぎると刺激が強くなりすぎる場合があるため、1 質量% を上限として含有することが好ましい。本発明の化粧料においては、バニリルアルキルエーテルを唯一種含有させることもできるし、二種以上組み合わせて含有させることもできる。好ましい形態は、バニリルブチルエーテルを単独で含有する形態である。